

「保育内容演習（音楽表現）」授業における歌唱指導について：
歌唱領域・教育実習のアンケート調査を通して

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2023-03-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 任, 暁剛, Ren, Xiaogang メールアドレス: 所属:
URL	https://senzoku.repo.nii.ac.jp/records/2671

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



「保育内容演習（音楽表現）」授業における 歌唱指導について

—歌唱領域・教育実習のアンケート調査を通して—

任 暁 剛

Xiaogang Ren

1. はじめに

平成29年改訂『幼稚園教育要領』の表現領域では「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう」「自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう」「感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする」と記されている。音楽表現活動に関しては、保育者養成における表現活動の中心である歌唱・器楽領域や身体表現などを取り上げ、歌唱・器楽技能及び身体表現を身に付け、レパートリーを増やすことが幼稚園教育の中に重要な課題であると考えられる。

しかし、現在担当している、保育者養成での「保育内容演習（音楽表現）」の授業時間は、極めて短く、学生のピアノの技術の習得状況や経験、歌唱技術の差が大きく、保育実習を控えてどのように効果的に指導していくか、様々な課題がある。

このような状況で、本研究では、保育内容演習における音楽活動に関する歌唱領域の基礎技能について、指導した学生の教育実習のアンケート調査などを検討し、学生が何を学び、何を課題として捉えたのかを明らかにしたい。そして、指導内容・方法の改善の一助になればと考えている。また、歌唱活動の際に身体表現を同時に行う子どもの歌の授業内容と指導の改善にも生かしたい。

2. 研究目的・研究方法

2-1 研究目的

本研究では、歌唱領域の視点から幼稚園においてしばしば歌われる童謡や唱歌、即ち学生が実習のために準備しておく必要のある曲目について検討する。そして、保育士・幼稚園教諭に求められる「歌唱力」「弾き歌い」で、ピアノ経験が浅い学生に対し、幼児により良い表現や指導ができるための効果的な授業内容や方法の改善点を明らかにすることが目的である。

2-2 研究方法

本研究では、筆者が以前音楽関連の論考において検討した「子どもたちが音楽に触れる機会」と「生活・季節・行事に関する」内容を基にして、先行研究及び文献研究をとおして、今後教育実習に備えた学生が練習すべき童謡・唱歌・わらべうたの曲目一覧を作成する。その際、平成30年度の教育実習を終えた目白大学子ども学科の「保育内容演習（音楽表現）」の授業内容、学生たちに調査した感想を参考にする。併せて、「保育内容演習（音楽表現）」を履修し、教育実習を終えた学生に対して、教育実習における音楽活動の調査や歌唱に関する調査を基に、課題を明らかにし、授業内容・方法等について検討する。

3. 大学における「保育内容演習」（音楽表現）の実践例

3-1 目白大学子ども学科「保育内容演習」（音楽表現）の授業概要

(1) 授業のシラバス（令和元年度）

①授業のねらい

- ・子どもへの適切な音楽的対応や援助ができるための実技中心ですすめる。具体的には器楽領域ではトーンチャイム・様々な楽器による器楽合奏に慣れ、歌唱領域では発声の基本と豊かな歌唱法で歌う魅力的な表現を目指す。
- ・保育に役立つ器楽演奏をし、保育現場で歌われる教材を独唱・弾き歌いを練習する中で、器楽演奏や歌唱表現の技能を高め、音楽的感性を伸ばし豊かな表現力を備えた保育者としての音楽的資質を高める。
- ・幼児のリズミカルなことばや歌、動き、音などによる表現に気づき、支え、さらに豊かにするために「子どもと音楽でコミュニケーションする保育者」を育成する。

②授業の目標

保育者としての音楽的資質を高めるため、声楽や音楽表現の基礎技能を身につけ音楽性豊かな弾き歌い、子どもの遊び歌の演奏ができるようにする。具体的にはわらべ歌・弾き歌い・身体表現・器楽表現を通して、子どもと音楽を楽しむための「音楽表現の引き出し」を増やし、基礎的な選曲、提示の方法などを学ぶ。また、子どもたちと共に歌う活動を魅力的に展開できる。

(2) 歌唱領域の学習目標

- ・保育活動で使う遊び歌による表現力を養う。
- ・歌の内容による音楽を動きで表現する。
- ・子どもに伝わるような表現力を養う。
- ・弾き歌い能力を高める。

(3) 歌唱領域の授業内容・課題

- ・本授業は歌唱と器楽の授業を分け、45分の中に以下の内容を行う。
- ・15回の授業の中で、課題曲から15曲を選択し、合格を目指す。
- ・独唱（5曲）「生活の歌（2曲）季節の歌（2曲）行事の歌（1曲）」階名や歌詞、動きも含め歌う。

- ・弾き歌い（5曲）「生活の歌（2曲）季節の歌（2曲）行事の歌（1曲）」リズムに焦点をあてたソルフェージュの弾き歌い。
- ・重唱（5曲）「生活の歌（2曲）季節の歌（2曲）行事の歌（1曲）」二人ずつのペアを作り、アカペラでハーモニーの練習を行う。特に音程やリズム、曲想などを注意しながら練習する。

(4) 教材

本授業は現場や教育実習の時によく使うわらべうたを選曲にし、授業内容に必要な教材、教育実習でよく使う楽譜などをまとめ、『こどもの歌名曲アルバム』（松山祐士 2012）、『ピアノ伴奏 160』（本間・三森 2013）の教材を使用した。

(5) 歌唱領域の授業過程及び状況

- ①一回目：授業内容に必要な資料、シラバスなどを説明。発声法、ソルフェージュの指導を行う。また、独唱の導入についての説明。二回目から五回目まで発表。
- ②二回目から五回目：「生活・季節・行事の歌」の独唱、階名唱を発表。60%の学生は独唱と階名唱の課題に対して、完成度が高く、40%の学生は音楽経験が浅く、歌うことが苦手で、正しいリズム、音程で歌うことができなかった。
- ③六回目：「生活・季節・行事の歌」の弾き歌い、重唱の導入についての説明。二人ずつのペアを作り、七回目～一四回目まで発表。また、弾き歌いの姿勢、注意点などを説明した。
- ④七回目～一四回目：70%の学生は弾き歌いの課題に対して、完成度が低く、ピアノを弾くと、歌の声小さくなることが多く見られる。重唱の課題に対して、アカペラで歌うことで、70%の学生はしっかり声を出し、ハーモニーの練習ができた。他の30%の学生は一人で歌うときに問題がなく、ペアと一緒に歌うと、正しい音程が取れない学生が多く見られた。
- ⑤一五回目：今まで合格した課題曲から（1曲）弾き歌いを選択し、大学のホールで発表する。発表の注意点は以下のとおりです。
 - ・表情豊かな歌唱表現による弾き歌いをする。
 - ・豊かな歌唱経験を積み重ね、魅力的な弾き歌いをする。
 - ・「生活・季節・行事の歌」を、創意工夫した演出で発表する。

3-2 「保育内容演習（音楽表現）」の授業における歌唱領域のアンケート調査

平成30年度目白大学子ども学科の2年生（50名）を対象にし、歌唱指導の問題点や改善点等をアンケートで調査を行い、46名の学生から回答を得た。以下に調査の概要と結果を示す。

(1) アンケートの概要

「保育内容演習（音楽表現）」の授業で、『歌唱に関するアンケート』の用紙を配布し、自身の歌唱技術、問題点に関する調査内容の説明を行った。調査内容は下記の4項目で回答するよう指示した。

- ・歌うことは好きですか？
- ・歌をどの程度歌っているか？
- ・子どもの頃に幼稚園・保育園の生活の歌を歌っていたか？
- ・自身の弾き歌いを行う時の問題点は何ですか？

(2) 調査結果

歌うことは好きですか？

①歌うことが好きだと答えた理由として、以下の回答に示す。

- ・上手く歌えると気持ち良いから。
- ・歌うこと自体を楽しいと思うから。
- ・テンションが上がる。
- ・ストレス発散できるし、楽しいから。
- ・好きですが、人の前で歌うのが苦手。
- ・自分を表現できると楽しいから。
- ・音に合わせて声を出すのが楽しいから。

②歌うことが嫌いだと答えた理由として、以下の回答に示す。

- ・音程がとれなくて音痴だから。
- ・普段は歌うことがないから。
- ・恥ずかしいから。
- ・声が出ないので歌うのが苦手。

アンケートの結果から見ると「26人は好きだ、16人はどちらかというが好きだ」と答えた学生は90%だった。「嫌いだ」と答えた学生は10%であった。歌うことに関しては、一部を除き興味・関心があり、積極的に歌う気持ちがあることが伺える。

歌をどの程度歌っているか？

アンケートの回答結果を以下に示す。

- ・家で音楽に合わせて歌う。
- ・カラオケによく行きます。
- ・お風呂で毎日歌う。
- ・口ずさむ程度だったら毎日歌います。
- ・本格的に自分で歌う場所（部活・サークル等）をつくるようになったのは高校生の時。
- ・ほとんど歌いません。
- ・全く歌わない。
- ・一ヶ月に一度カラオケに行く程度。
- ・夜に鼻歌を歌っているぐらい。

- ・車でかえるときに歌う。
- ・カラオケに行くときや音楽の授業で歌を歌うぐらい。

アンケートの結果から見ると「歌をどの程度歌っているか」の質問には、「ほぼ毎日歌っている」と答えた学生が60%で最も多かった。「カラオケに行った時や授業内で歌う」と答えた学生は36%だった。日常的に歌に対して抵抗感なく、歌っている様子が見られる。一方、授業や実習を意識した練習をしている様子は見られない。

子どもの頃に幼稚園・保育園の生活の歌を歌っていたか？

アンケートの回答結果を以下に示す。

- ・「思い出のアルバム」を歌った。(16名)
- ・「おもちゃのチャチャチャ」を歌った。(11名)
- ・園歌しか覚えていません。(3名)
- ・覚えていない。(4名)
- ・歌っていたけど、細かいことは分からない。(4名)
- ・「さよならほくたちの保育園」しか覚えてないです。(4名)
- ・毎日うたうわけではなかった。行事の時にうたうための練習でうたう。(4名)

この調査結果からわかるように、「子どもの頃に生活の歌を歌っていたか」「歌っていた」と答えた80%だった。「覚えていない」と答えた学生20%だった。

自身の弾き歌いを行う時の問題点は何ですか？

アンケートの回答結果を以下に示す。

- ・ピアノが苦手だから、歌に集中できていないこと。
- ・両手できない。
- ・ピアノの指につられて歌が100%歌えない。
- ・和音が苦手。
- ・ピアノを弾けない。
- ・音譜がよめません。
- ・ピアノに集中してしまうとうたえない。

アンケートの結果から見ると、「歌は得意だが、弾き歌いになると歌えない」と答えた学生が80%(35人)と最も多かった。

(3) 調査結果の考察

アンケートの調査結果を考察し、以下の内容を明らかになった。

- ・歌うことは「好きだ」という回答が多く、カラオケや自室などの一人になれる空間で好きな曲を歌ったり、口ずさんだりすることはあまり抵抗を感じずにできるのではないかと考えられる。しかし、歌唱力や表現力を意識した歌の練習をしている様子は今回の調査では見られなかった。
- ・「歌は得意だが、弾き歌いになると歌えない」という回答が、対象学生の一番の課題である。保

育者に求められている歌唱力というのは、「弾き歌い」での歌唱、子どもたちのお手本としての歌唱であり、「弾き歌い」時の歌唱には、ある程度のピアノ・歌唱技術と表現力が求められる。そのため、専門的に学ぶ機会が少ない学生にとっては、弾き歌いを行なう場合、ピアノだけでなく「歌唱」にも課題であると言える。さらに、子どもたちの前とは言え、一人で注目をあびながら、という環境下でおこなわなければならない。指導者として、授業内の歌唱指導では学生の個々の状態に寄り添い、丁寧に指導していく必要がある。

- ・ごく少数ではあるが、「歌いたくない」と答えた学生が4%であった。「歌は苦手なので弾き歌いになるとさらに歌えない」という回答は30%（14人）であった。「保育内容演習」（音楽表現）を受講している学生は音大生と比べると音楽基礎の力が不足しており、歌唱領域の経験はほとんどない。授業の中に弾き歌いの歌い方、発声練習などを学んでいるが、実際には授業外では、練習していないのが現状である。
- ・歌うことが苦手な学生にとって、ピアノを弾きながら同時に歌うことは大変な困難が伴う。弾き歌いのレッスン時に学生の様子を見ると、ピアノが初心者学生は、曲の始めは弾き歌いになっていても、数小節進むといつの間にかピアノだけになってしまい、歌っていないことがある。こちらが指摘するとさらに緊張し、演奏ができなくなる。ピアノが得意な学生でも、“ほそほそ”と弱い声で歌うことが多い。この様子を見ると「弾き歌い」がいかに学生にとって難しく、不安になるかが分かる。
- ・弾き歌いの演奏技術は歌の専門家にとっても容易なことではない。音楽経験が少ない学生にこのように高度な技術を、保育実習で指導できるようにするために、指導内容や方法を精選していくことが必要である。

4. 『教育実習』のアンケート調査

保育者養成で学ぶ学生たちにとって教育実習とは、授業などで得た知識、技術と保育現場での実践を結ぶ最初の機会であり、実際に子どもたちと語り合い、共に活動することによって日頃培った学びをより深めることのできる場であると言える。中でも音楽表現活動は、子どもの自由な発想を認め、表現力や感性を育むことができる機会として重要な活動の一つと考える。

ここで、目白大学子ども学科「保育内容演習（音楽表現）」に行った学生たち（50名）のアンケート等を参考にし、教育実習における音楽活動の問題点や改善点を分析する。

(1) アンケートの概要

教育実習開始1週間前に「教育実習における音楽活動に関するアンケート」の用紙を配布し、音楽活動に関する調査内容の説明を行う。さらに、調査内容は下記の4項目で回答するよう指示した。

- ・実習を通して知りたいと思っていることは何ですか？
- ・実習中にどんな音楽活動を行ったか？
- ・実習中に難しいと思ったことは何ですか？
- ・今後の自身の課題は何ですか？

(2) 調査結果

実習を通して知りたいと思っていることは何ですか？

①園での使用曲や使い方について

- ・どのような場面でどのような曲を弾いているのか。
- ・季節の歌は何を歌っているのか。
- ・園で何歳児が何を歌っているか。
- ・どんな幼児曲の教材を使っているか。
- ・生活のどこで、どれくらい音楽を使っているか。
- ・ピアノ以外にどんな音楽活動をどのようにするのか。

②指導法について

- ・手遊びの仕方
- ・ピアノ伴奏中に止まってしまった時にどうすればよいか。
- ・キリスト教保育にはどのような歌がある。
- ・子どもが知らない曲をどう指導するか。

③子どもの音楽への興味・関心について

- ・子どもたちは音楽についてどう思っているのか。
- ・子どもたちはどんな曲が好きなのか。
- ・子どもの音楽に対する興味。

この質問の結果をみると、自らも音楽を使い子どもと関わりたいと言う意欲が見て取れる。現場で具体的な指導法を知りたい学生も多く見られた。

実習中にどんな音楽活動を行ったか？

- ・ピアノが苦手なので、子どもたちと手遊びした。
- ・歌うときに、身体を使いながら歌い、子どもたちの興味をひく。
- ・手遊びをしながら歌うと子どもたちも楽しんでくれた。
- ・「おべんとうの歌」「おもちゃのチャチャチャ」「カエルの歌」などを歌った。
- ・子どもたちの表現を合わせて歌ってみたり動いたりした。
- ・園歌を教えてもらった。

この質問の結果を見ると、手遊び、身体表現の活動が多くみられる。

実習中に難しいと思ったことは何ですか？

- ・ピアノの練習不足で伴奏を間違っしまい子どもたちの歌は途中で止まった。
- ・歌いながら、子どもたちを見てピアノを弾くこと。
- ・子どもたちのペースに合わせて歌うこと。
- ・幼児の年齢による、どんな音楽活動をする事。
- ・子どもたちの前で大きな声で歌うこと。

この質問の結果をみると、「弾き歌い」に関する回答が多数を占めた。特に、ピアノをはじめとする保育技術に関しては、授業で学んだ技術・知識だけでは、実際の保育現場に対応するのは難しいと思われる。

今後の自身の課題は何ですか？

- ・ピアノの技術を工夫する。
- ・自信を持てるようピアノ授業の時から意識しながら取り組みたい。
- ・ピアノをミスしても、止まらないで歌う技術をつける。
- ・歌いながら子どもたちの様子を見て伴奏する。
- ・もっとたくさんの幼児曲を練習する。
- ・子どもの前で緊張せず、楽しい身体表現の能力を工夫する。
- ・自分自身が楽しんで音楽活動すること。
- ・左手のコード伴奏法を身につける。
- ・歌唱の表現力を豊かにしたい。
- ・暗譜で弾けるようになること。

この質問の結果をみると、歌唱の技術、伴奏法、ピアノの技術、表現力などに関する課題が多く見られた。

(3) 調査結果の考察

アンケートの調査結果から以下のことが明らかになった。

- ・目白大学子ども学科の学生は約70%が音楽初心者である。弾き歌い経験がほぼないこと、1年生と2年生で学んだピアノ基礎や音楽実技や音楽表現などの内容は、実際の実習で生かせる技術まで達成していない学生もいる。
- ・子どもに合わせて弾きたい気持ちを持っていたとしても、実習先で実際に子どもたちの前でピアノを弾くと、楽譜と鍵盤に集中し、余裕をもって子どもたちの顔を見ながら弾くことができない。このような状況において、どのように実習に向かうかなど、注意点や工夫すべき点を事前に指導すること必要である。
- ・実習中に音楽を効果的に使うことで、子どもの意欲や表現力を引き出し、音楽の楽しさ、音楽活動の重要性を再度認識して実習に備える必要がある。
- ・保育現場で音楽活動を展開する際、ピアノで伴奏をする場面も多くあるが、必ずしも保育者がピ

アノを多用しているというわけではない。個々の学生の状況からピアノを用いずに他の方法も考えた指導を提案することも必要である。具体的には手遊びをしながら歌い、タンバリン、トライアングル、ハンドベル、カスタネットなどの打楽器を使い、子どもたちの興味をひく方法などである。

- ・指導者は、実習後に保育現場で必要となる歌唱・ピアノ・表現技術を身に付けさせるため、個々の学生の実態把握をし、きめ細かな指導が重要であると考ええる。

5. 幼稚園・保育園で歌われる曲目の指導について

幼児は、生活の中で、様々なものから刺激を受け、敏感に反応し、諸感覚を働かせてそのものを素朴に受け止め、気付いて楽しんだり、その中にあるおもしろさや不思議さなど感じて楽しんだりする。『新版 実践 保育内容シリーズ5 音楽表現』（三森）には、「幼児が会う美しいものや心を動かす出来事には、完成された特別なものだけでなく、生活の中で会う様々なものがある。」とある。

実際に幼稚園や保育園等で用いられている童謡を中心に、特に子どもたちが歌いやすいもの、親しみやすいものを取り出したうえ、平成30年度教育実習に行った学生たちの感想なども参考して、おもに今後の教育実習に向けて学生たちが事前に練習しておいた方がよいと思われる曲目を「生活・季節・行事の歌」に作成した。（表1）この一覧から学生は教育実習先の状況を見据え15曲を選択し、合格レベルまで指導をしていく必要がある。

（表1）（教育実習までの練習曲の一覧「生活・季節・行事の歌」）

<p>①生活の歌</p> <p>登園時：朝のうた、おはようのうた 昼食時：おべんとう、おかたづけ 降園時：おかえりのうた</p> <p>幼稚園では登園時によく歌われる「朝のうた」に始まり、降園時によく歌われる「おかえりのうた」の歌まで、おそらく童謡を歌わない一日はないと言ってもよいだろう。特に一日の流れの中で欠かせない童謡が「生活の歌」と呼ばれている一連の歌である。</p>
<p>②季節の歌</p> <p>春：春がきた、ちょうちょう、ぶんぶんぶん 夏：あめふりくまのこ、かたつむり、夏の思い出 秋：大きな栗の木の下で、とんぼのめがね、どんぐりころころ 冬：雪、春よ来い、たき火</p> <p>幼稚園は園庭が広く、自然、すなわち草花や昆虫などが豊富で、すこしでも四季の風景を子どもたちに実感させるとよいであろう。</p>
<p>③行事の歌</p> <p>入園式・進級時：せんせいとおともだち、きょうからおともだち こどもの日：こいのぼり 母の日：おかあさん 遠足：線路が続くよどこまでも、バスごっこ 父の日：どんなおひげ 時の記念日：たなばたさま</p>

プール開き：水あそび

お泊りの保育・キャンプ：静かな湖畔、さんぞくのうた

お月見：うさぎ

お祭り：村祭り

運動会：うんどうかい

いもほり：いもほりのうた

クリスマス：きよしこの夜、ジングルベル

お正月：お正月

節分：豆まき

ひなまつり：うれしいひなまつり

卒業式：一年生になったら、思い出のアルバム、さよならほくたちのほいくえん

誕生会：ハッピー・バースデー・トゥ・ユー

年中行事や記念日を通して、日本のすばらしい四季に富んでいることを子どもたちが見たり感じたりする経験は、日本の文化を伝えていくという意味でも、大切なことだと考える。

6. まとめ（結論・課題・展望）

(1) 結論

本研究では、「保育内容演習（音楽表現）」の授業内容の充実、及び保育者としての音楽的資質を高めるため、歌唱力や音楽表現の基礎技能、弾き歌い、幼稚園で歌われる童謡、歌唱領域と教育実習に関するアンケート調査などを考察した。今回の調査により、幼稚園実習での活動から学生が得た学びが明らかとなり、同時に学生が抱える課題、授業改善についての事柄についても明確に把握することができた。

その結果、課題として以下のことが明らかになった。

- ・学生は、歌唱力、表現力を高めて弾き歌いながら歌うことの重要性について理解してはいるものの技術が身に付かず、不安や焦りが先行してしまっている。
- ・教育実習までの見通しをもって、ピアノや歌唱、弾き歌いの練習を計画的に行っていない現状がある。
- ・授業の内容は、ピアノ指導を主とした音楽（器楽・声楽・弾き歌い）を中心に開講している。歌唱指導よりもピアノ指導に割り当てる時間が多くなっている現状がある。
- ・授業で扱う曲目を明確にし、個々の実習先に対応できるようレパートリーの拡大を目指すことが必要である。

以上の課題から今後は以下のことに留意し、講義を進めていきたい。

- ・学生は、保育現場の歌唱活動の重要性を知り、幼稚園・保育園で歌われる曲目の言葉を正しく発音し、伝え、音程を正しく取り、歌い、子どもたちにしっかり届くように工夫をしていく。
- ・指導者は、学生の演奏に合わせて歌う場面を設定する。学生はその歌声を耳で聴き、「弾きながら歌う」イメージを持つことで実際の実習での課題を明らかにする。
- ・保育実習までの見通しをもたせ、自主練習計画を作成させる。実習までに練習すべき曲目一覧（教育実習までの練習曲の一覧「生活・季節・行事の歌」）を1年時に提示し、レパートリーを拡大するよう計画を立て練習をしていく。
- ・弾き歌いの課題点について、学生一人一人の課題を明確にし、個別指導を増やし、練習課題を与えていく。また、ピアノが得意な学生に対してはコード奏の理解と実践による知識と技能の習得を

促していく。

- ・歌唱指導に対して、アシスタントの講師によるチームティーチング体制を整え、全体指導よりも個別指導を重視した授業構成にしていく。
- ・課題曲については、視聴覚教材なども活用しながら、歌詞の内容やニュアンスのイメージを広げる工夫をしていく。
- ・「歌詞の先取り」について、弾き歌い技術と大きく関連しているため、今後の授業において鍵盤を見ずに弾き歌い、マイクロティーチングを取り入れることで、先生役を定期的実践するなど、実践を意識した授業を行う。

今後、『教育実習』において、幼児の興味・関心を引き出し、一緒に楽しみながら歌唱することを目指し、過度に楽器に頼ることなく、学生自身の「声」による音楽表現能力を育てることを大切にしていきたい。

(2) 展望

筆者の勤務する目白大学子ども学科「保育内容演習（音楽表現）」の授業ではピアノ指導を主とした音楽（器楽・声楽・弾き歌い）を中心に開講している。これからの保育者を養成していくにあたり、普段の幼稚園での子どもの生活から、子どもが何気なく発した言葉、動作などに気づき、その気持ちを理解した上で、保育者として音楽活動を生き生きと展開することのできる豊かな感性を近づけるように精進していきたい。今後、大学の「保育内容演習（音楽表現）」の授業における新たな取り組みについて、まず学生たちに対して歌唱能力やピアノ伴奏法や弾き歌いなどの指導を行う際には、その学生が将来に関わるであろう園児に対する個々の対応について考えさせながら、授業内容を改善したい。また、身体表現に関しては、『幼稚園教育要領』における身体表現の位置づけを確認し、幼児の身体表現と保育者の関わりに関する研究したい。しかし、身体表現の授業実践に関する研究が少なく、その理由はデータの収集が難しいということが挙げられる。ビデオ機器の利用や受講者である学生の内省の効率的な収集、共同研究や研究方法などを工夫していく必要があると考える。さらに、我々指導者は保育者育成の一助となるための授業改善を模索し、大学での音楽授業が学生たちの目の前の幼稚園・保育園での実習のみならず、卒業後の教育関係の職場にも反映されるような授業になることを目指したい。

7. 参考文献

- 文部科学省（2018年）『平成29年告示 幼稚園教育要領』株式会社東山書房
文部科学省（2018年）『平成29年告示 幼稚園教育要領解説』フレーベル館
小泉文夫（1986年）『子どもの遊びとうたーわらべうたは生きている』草思社
本間玖美子・三森桂子（2013年）『これなら弾ける！保育のうたピアノ伴奏160』株式会社ナツメ社
荒木紫乃（2003年）『音・音楽の表現力を探る』文化書房博文社
井口太（2014年）『新・幼児の音楽教育』朝日出版社
三森桂子・小島エマ（2018年）『新版 実践 保育内容シリーズ5 音楽表現』株式会社 一藝社
目白大学子ども学科（2018年）『保育内容演習・音楽表現シラバス』
永田尚子（2004年）『学校音楽研究』「歌唱表現における生徒の音楽的思考の発展を促す学習過程の養成」
日本保育学会（2001年）西洋子「保育者の身体性」
佐々木由喜子（2014年）『保育内容シリーズ5 音楽表現』株式会社 一藝社

